



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 III V 】
2 実施対象者	学校名 千葉県立桜が丘特別支援学校 対象 全児童生徒 人数 169名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(体育) ② 行事名(校外行事・千葉県特別支援学校高等部駅伝大会) ③ その他( ) (2) 地域における活動 ① イベント名( ) ② その他( )
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツを通して目標に向かって仲間と共に努力することや身体を動かすことへの親しみや楽しさを感じながら興味関心を高める。</li> <li>・スポーツを通じて、他校との交流の中で互いに支え合い、互いを尊重し合える心の育成につなげる。</li> </ul>
5 取組内容	<p>○今年度から立ち上げられた千葉県特別支援学校体育連盟主催の高等部駅伝大会(車いすの部)へ、高等部でチームをつくり、出場する取組とした。</p> <p>&lt;事前&gt;                  高等部を中心に希望者を募り、6名の選手でチームを編成し、体育の授業や放課後の時間を利用して、時間走や、たすきの受け渡しの練習に取り組んだ。体育では、毎回走った距離を記録し、一人一人自分で振り返り、反省や次の課題、目標を立てるようにした。</p> <p>&lt;当日&gt;                  6名の生徒が出場。2kmの5区間、計10kmを6名で最後までたすきをつなぎ、完走することができた。大勢の出場選手や同じ車いすの選手間での交流、また互いに刺激を受けながら生徒たち自身が達成感や成就感、また今後の取り組みへ興味が深まった大会となった。</p>
	 

	<p>&lt;事後&gt;</p> <p>大会出場後、大会までの練習や当日の様子や感想について振り返る時間を設定した。それを踏まえながら、体育の授業の中では、持久走やこの大会の経験を校内駅伝大会につなげた。</p> <p>また、毎回の授業や駅伝大会での取り組みの様子から、平成30年3月4日（日）に駒澤オリンピック陸上競技場で開催される「パラ駅伝 inTOKYO2018」に、本校から車いす（女子）選手として、高等部から1名の生徒が出場することになった。体育の授業や12月に行われた高等部駅伝大会への出場をきっかけに、この大会につなげることができた。現在は、放課後の時間を利用して、練習に取り組んでいる。</p>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習を積み重ねていく中で、タイムが縮まったり、時間走で走れる距離が長くなったり、車いすの操作に慣れたりする様子が見られ、練習や大会への意欲を高めることができた。</li> <li>・走ることに興味をもち、今回の活動により意欲的な面が出てきたり自信につながったりした生徒も見られていた。</li> <li>・大会への出場をきっかけに、スポーツへの興味・関心や仲間との交流の場を広げたり、経験・視野を広げたりする良い機会となった。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点 （事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会当日はもちろん、練習の中でも常に目標をもって取り組むための働きかけを行うようにしていた。</li> <li>・安全に練習が取り組めるように、人的・物的にも環境整備を行うようにした。</li> <li>・時期的に体調管理に配慮が必要な季節であったため、健康観察等十分に気をつけながら実施した。</li> </ul>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会参加に当たっては、多くの職員を必要とするため、学校内での協力体制が欠かせない。</li> <li>・安全に練習が進められるように、人的・物的に環境整備を行っていく必要がある。</li> </ul>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度と同様、大会への積極的な参加を計画していく。</li> </ul>